

受理日	血対番号	感染症(PT)	出典	概要
2005/10/27	50141	BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症 情報／詳しい情報)	BSE, ウシー米国 ・情報源: USDA記者室発表No. 0232.05, 6月24日。 農業書記官は2005年6月24日, 米国農務省(USDA)がイギリスWeybridge(国際BSE委託検査室である)獣医学検査室(VLA)より, 2004年11月に食用供給から外された動物検体が牛海綿状脳症(BSE)検査陽性であるとの最終検査結果を受領したことを公表した。 < http://www.usda.gov/wps/portal/!ut/p/_s.7_0_A/7_0_1RD?printable=true&contentidonly=true&contentid=2005/06/0232.xml > < http://www.usda.gov/wps/portal/!ut/p/_s.7_0_A/7_0_1RD?printable=true&contentidonly=true&contentid=2005/06/0233.xml > ・情報源: ロイター, 6月25日。 USDA動植物疾患監視局責任者の確実なコメントとして米国2頭目のBSE感染ウシはペットフード工場で屠殺されたウシであること, ウシの生産元は不明であるが1997年以前に米国内で誕生したウシであることなどの記載, 原文参照。
2005/10/27	50141	BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症 情報／詳しい情報)	Alert Messages 米国におけるBSE: (米国における前回のBSE症例がOIEに報告された日時: 2003年12月(輸入動物)) 報告日: 2005年6月27日 2004年11月に迅速スクリーニング検査で検討された際にはBSEと診断確定できなかった歩行困難なウシが, 2005年6月に英国WeybridgeにあるOIEのBSE委託研究所でウエスタンプロット法と免疫化学法を用いて陽性と確認された。歩行困難な個体として, 問題のウシはヒトの食糧連鎖からは除外されている。死骸は焼却処分された。 アウトブレイク原因/感染源-不明もしくは結論に到達していない。感染したウシは, 米国政府が1997年8月に反芻動物組織を反芻動物の飼料とすることを禁じる前に生まれた。農務省は問題の動物の起源を確定するための調査を開始した。
2005/10/27	50141	BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症 情報／詳しい情報)	BSE, ウシー米国 情報源: USDA記者発表, 6月29日。 米国農務省(USDA)主任獣医官 John Clifford氏による声明。 「2005年6月第4週, BSE検査陽性と同定された動物が飼育されていた個体集団(群)がDNA検査により同定された。飼い主から当局が入手した情報に基づいて, このウシはテキサス州内で飼育されている集団で生育し, 年令が約12才前後であったことが確認された。問題のウシは, テキサス州のペットフード工場へ送られ, 到着時に抜き取り検査検体として選択された。」 < http://www.aphis.usda.gov/lpa/issues/bse/BSE_statement6-29-05.pdf > (2005年6月30日掲載)
2005/10/27	50141	BSE	ProMED情報 (厚生労働省検疫所 海外感染症 情報／詳しい情報)	・BSE最新状況, 2005年, 米国: 3例目発生の疑い, 情報源: Reuters alertnet, 7月27日。 米国農務省は7月27日, BSEが疑われている12才令のウシが, 米国で3例目のBSE症例であるか確認するため, 再検査される予定であると発表した。農務省Clifford主任獣医官は, 2005年4月出産に伴う合併症で死んだ後処分された感染疑いウシが, BSEスクリーニング検査で陰性と確定できない検査結果が出ていたことを明らかにした。Clifford主任獣医官は, 疑い症例が米国生まれであることを認めたが, 飼育されていた場所は明示しなかった。米国畜産業界では, 疑いウシはヒトの食品供給からは完全に除外されていたと発表した。他方, Clifford獣医官は, 疑い症例と一緒に飼われていた群は隔離されていないと述べた。 ・BSE最新状況, 2005年, 米国: 3例目発生の疑い, 情報源: APHIS新聞発表。 米国農務省主任獣医官による未確定のBSE検査結果に対する声明。強化BSE監視計画の一環として検体採取された動物の暫定検査結果が届いた。USDAは英国Weybridgeにある国際委託研究所からの専門家と協議しながら, さらに検査を進めている。このウシはヒトの食物や動物の飼料流通経路の中に入っていないので, 食糧供給に脅威は与えないということが重要である。